

前回検討会（第8回 平成30年9月27日）における主な意見（案）

1. 災害時情報収集体制の強化について

- 情報の真正性[※]の確保について検討すべきではないか。
※ 正当な権限において作成された記録に対し、虚偽入力、書換え、消去及び混同が防止されており、かつ、第三者から見て作成の責任の所在が明確であること（厚生労働省 医療情報システムの安全管理に関するガイドライン）
- 携帯電話等の通信手段の確保も検討すべきではないか。
- 災害拠点病院以外の通信手段の確保に関して検討すべきではないか。
- EMISの操作性の向上と合わせて入力者を教育・訓練する体制、啓発が必要ではないか。
- EMIS等のシステムを定期的に検証、改善できる仕組みが必要ではないか。
- EMISにおいて支援を求めた医療機関の抽出ができる仕組みを検討すべきではないか。
- EMISに登録される医療機関の属性や情報わかるように改善が必要ではないか。
- EMISの検討は、実際に使用する者を入れて開発していただきたい。
- EMISの入力を促すために、双方向性の情報共有等のインセンティブを検討してはどうか。
- EMISの入力率を上げ、活用を促進するために、登録する医療機関、基本情報、入力項目等の重要性を自治体、医療機関の理解を促す必要があるのではないか。
- 医療機関の停電対策について、様々な方策を検討すべきではないか。
- 各医療機関におけるBCP策定におけるポイントや課題についても検討が必要ではないか。

2. ドクターヘリの現状と課題について

- ドクターヘリの運用にどれくらいのコストがかかっているかなど、効率性に

ついて今後議論すべきではないか。

- ドクターヘリ事業の質の評価を進めるために、症例登録からの学術的検討及び行政の立場での検討が必要ではないか。
- ドクターヘリの大規模災害での活用について、引き続き検討すべきではないか。